

# 教育支援システムによるコミュニケーションスキルの向上に向けた取り組み

佐久間貴士\*1・小塚光芳\*2  
Email: t-sakuma@uv.tuc.ac.jp

\*1: 高崎商科大学

\*2: 埼玉女子短期大学

◎Key Words 情報教育, 授業改善, 学習環境

## 1. はじめに

大学におけるインターネットの利用環境は以前から整ってきており、自宅への普及率も 80%を越え、スマートフォンやタブレットPCの普及により、個人においても手軽にインターネットを利用できる環境は整いつつある。総務省の平成 27 年度版情報通信白書によると、平成 26 年末の情報通信機器の世帯における普及状況は「携帯電話・PHS」が 94.6%、「パソコン」は 78.0%となっている。また、「携帯電話・PHS」の内数である「スマートフォン」は 64.2%であり、前年と比べ 1.6 ポイント増と急速に普及が進んでいる。さらに平成 26 年末のインターネット利用者は、平成 25 年末より 26 万人減少して 10,018 万人（前年比 0.3%減）、人口普及率は昨年と同様の 82.8%となっている。端末別インターネット利用状況を見ると、「自宅のパソコン」が 53.5%、「スマートフォン」が 47.1%、「自宅以外のパソコン」が 21.8%となっている。加えて、個人の世代別インターネット利用率は、13 歳から 59 歳までは各階層で約 9 割を超えている。これは IT を利用した教育がより実践しやすくなっていることを示している。

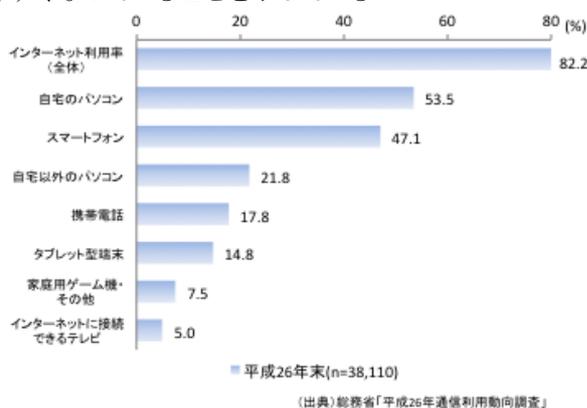


図 1 インターネット利用端末の種類

また、文部科学省の学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）では、学士教育課程において身に付けるべき学士力とは、以下のような 4 つの能力を持ち、その総合として各学生に習得されていることが期待されている。すなわち、共通の諸能力を具備していることが要請されている。

### 1. 知識・理解

多分化・異文化に関する知識の理解、人類の文化、

社会と自然に関する知識

### 2. 汎用的技能

コミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシ、論理的思考力、問題解決力

### 3. 態度・志向性

自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理性、市民としての社会的責任、生涯学習力

### 4. 総合的な学習経験と創造的思考力

獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に適用し、その課題を解決する能力

学士力に関する主な内容として、IT リテラシは知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技術である汎用的技能の一つとして示されている。

このような背景を踏まえ、これまで基礎情報教育科目を担当し、大学一年生が大学生活や社会人として求められるスキルの修得を目指し、基礎的な IT リテラシ教育を実施している。そして、教育支援を目的とした Web を利用した教育支援システム（以下、本システム）の開発を試験的に進めてきた。

これまで学生の学習に対するモチベーションを向上させるために様々な取り組みを行ってきたが、その中でも学生と教員の心理的距離間を縮めることが有効であると考えている。学生にとって教員が身近な存在であると、学習に意欲を示す傾向にあると感じている。そこで授業内コミュニケーションの補助ツールとして、これまで開発を進めてきた教育支援システムを利用することで、実践的なコミュニケーションスキルの育成につながると期待している。

## 2. 双方向性を確保した環境

### 2.1 教育支援システム

基礎情報教育科目における教育効果のボトムアップを目的として、本システムの開発を進め、一部の機能を試験的に Web 環境に移行している。本システムは、IT リテラシに対して苦手意識のある学生であっても円滑に復習ができるように操作方法はマウスクリックで進められるようシンプルな操作に留意し開発している。これにより、「容易・簡単に復習する」ことが実現できると考えた。

### 2.2 学習時間の測定

本システムにおいて、学生の学習時間を測定することによるモチベーションの向上を図る。学習者は本シ

システムを利用した学習時間の累計を確認することができる。これにより学生は自信の学習時間を把握することができるだけでなく、他者との比較を行うことができるので、順位付けを表すランキング表を付加した。学生が自身の勉強時間を把握するだけでなく、同じ講義を受ける受講生内でそれを比較し、全体における学習時間の順位を確認することで、モチベーションの向上に繋がると考えている。この学習時間の見える化により、学生間で学習時間を競わせ、ゲーム性を含めた授業展開が可能となっている。また、繰り返し学習としての効果が望めると期待している。

### 2.3 理解度の把握

簡単なアンケートを実施することが学生理解度の把握に繋がると考えている。毎回の授業に関する事なので、学生が面倒な作業に感じないような、一言程度書けるアンケートが有効である。そのため本システムでは、課題を提出する際にコメントを入力できるようにした。この数行程度のコメントにより、教員は次回以降の授業展開や課題の作成に役立てることができる。同様のコメントが寄せられた場合は、授業の冒頭でその内容を知らせ、復習の意味を含めた確認作業からの授業を展開することで、学生自身も教員からのフィードバックを確認することができる。このような形態を取ることで、対話型の授業を実感できる展開に繋がると考えている。また、教員にとって教授行動の改善を行うための授業リフレクションとなり、授業の再構築に役立つとも考えている。

### 3. 双方向型学習

学習意欲や目的意識の希薄な学生に対し、どのような刺激を与え、主体的に学ぼうとする姿勢や態度を持たせるかは、極めて重要な課題であるとしている。これまでの経験から学生に一声かけるなどコミュニケーションを取ることで、学習意欲を向上させることがあると感じられる。この経験から既存知識の一方的な伝達だけではなく、双方向型授業や学生が自ら研究に準ずる能動的な活動に参加する機会の設定が不可欠である。さらに大学に期待する取り組みとしては、学習の動機付けに加え、双方向性の学習の展開や体験活動を含む多様な教育方法、情報通信技術の積極的な活用や双方向性を確保した教育システムが求められている。

### 4. 学生のコミュニケーションスキル

企業が新卒学生に求めるものとして、常に上位に上げられるのがコミュニケーションスキルである。中でも話し方や印象といったリアルコミュニケーションが最も着目されている。IT機器が広く浸透している現代においては、同レベルでWebにおけるコミュニケーションも重要とされている。これを育成するために最も必要なことは、自分が他人に向けて送る文章を第三者が確認することである。自分の文章が相手にどんな感情を抱かせるのか、あるいはどう

理解されるのかを確認することで、自分が書く文章への関心が生まれ、より実践的なコミュニケーションスキルの育成に繋がると考えている。

本システムにおいて、学生は講義終了後、提出機能を利用して課題を期日までに提出する。その後、担当教員は提出された課題を確認し、課題内容を確認したことを知らせる項目にチェックする。その際、必要であればコメントを付加し、再提出を要求することが可能である。その場合、学生は再提出して再度その確認を要求することになる。最後にその教員が課題を確認し、項目にチェックを入れる。教員と学生とのやり取りの機会が一手間増えることで、相互の距離感を縮め、双方向型の学習を実現することになる。さらに、学生のコミュニケーションスキルの向上を目指し、意思を文章にして正確に伝える技術を修得させたいと考えている。論理的な意思の伝え方を練習させるための型を習得させる。例えば、PREP法等を利用し、Point(結論、文章の要点部分)、Reason(結論の理由)、Example(理由の裏付ける具体的な例)、Point(文章のまとめ部分、最初のポイントを繰り返す)といった型で入力させることで伝えるための型を修得させる。つまり、文章の組み立て方を含めた形でのコミュニケーションスキルを身に付けさせる。

### 5. おわりに

従来から試作してきた本システムに改良を加え、双方向性を確保した環境における学生のコミュニケーションスキルの育成に繋がる運用形態を提案した。本システムを利用することで、社会で必要とされるリアルコミュニケーションと同様に、Webにおけるコミュニケーションがより実践的に身に付くことを期待している。併せて、論理的な意思の伝達の型の修得を含めたコミュニケーションスキルの向上を目指す。また、今後は教員と学生でやり取りを行った文章を学生間でも開示できるよう改善し、これにより第三者の確認が行えるようにしたいと考えている。そして本システムを授業内コミュニケーション補助ツールとして利用できるよう改善を進めたい。

### 参考文献

- (1) 佐久間貴士, 小堺光芳: “能動的な授業の展開に向けた教育支援システムの利用”, 2015PCカンファレンス論文集, pp.41-42 (2015).
- (2) 佐久間貴士, 小堺光芳, 山下倫範: “双方向型授業の展開に向けた教育支援システムの利用”, 第9回パーソナルコンピュータ利用技術学会全国大会講演論文集 (2014).
- (3) 総務省: “平成27年度版 情報通信白書 インターネットの普及状況”, <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/h27.html>, (2016/06/12).
- (4) 文部科学省: “学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)”, [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkou/080410.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkou/080410.htm), (2016/06/12).